



昔の石積が残る堰



↑八ヶ郷堰（相生町地内）



↑笹堰（光禅寺内）



↑御殿堰（専称寺内）

↑馬見ヶ崎川五堰流路図（小白川財産区所蔵）

「山形五堰」ができるまで

1 殿様の決断



殿様は、馬見ヶ崎川の流れを変え堰を作るように命令しました。

2 設計図づくり



堰をどの場所に作るか、現地を調べたりみんなで話し合って決めました。

3 測量



土地の高さを調べるため、夜に提灯を持って高さを測りました。

4 工事



馬見ヶ崎川の上流から「もっこ」で石を運び水路を作りました。

7 山形五堰と水利の変遷

江戸時代～

馬見ヶ崎川と「山形五堰」

山形市街地には網の目のように流れている笹堰・御殿堰・八ヶ郷堰・宮町堰・双月堰の5つの堰（全長115km）があります。

江戸時代の始め（1623年）、馬見ヶ崎川が大洪水をおこしました。馬見ヶ崎川の流れはとても急で、何度も洪水をおこしていましたが、この時は、町中が水びたしになり、山形城のお堀も壊れてしまいました。

これを見かねた当時の山形藩主鳥居忠政が、翌年の1624年から、洪水から町やお城を守るため、馬見ヶ崎川の流れを町から遠ざける大工事にかかりました。工事は、盃山の一部を切り開き、現在の松原浄水場付近に堤防をつくり、現在と同じような流れに変えるというもので



山形五堰を探検し、山形400年の街並みやくらしを感じたり、山形における水利利用の歴史を調べてみましょう。

山形五堰の役割



↑農業用水（水田や畑）



↑水車業（精米 製粉）



→コイ・ウナギ料理店
染物屋
紙すき



↑山形城の「お堀の水」



↑生活用水（洗濯や洗い物）※上下水道ができるまで



↑七日町御殿堰



↑六小東通りせせらぎ水路

最上川中流農業水利事業



↑最上川中流農業水利事業



↑最上川取水口



↑西部幹線トンネル



↑用水路トンネル出口

最上川の水が山形市の田畑に？

「山形市の多くの水田は最上川の水を使っています。」この言葉に誰もが驚きます。それもそのはず、最上川は白鷹山のさらに西を流れており、山形市を通過していません。

それでは、どうして、山形市に最上川の水が流れてくるのでしょうか。それは、山形市の西部の山に9.1kmもある長い「水のトンネル」（西部幹線トンネル）を造成したからです。水のトンネルは朝日町の宮宿の近く「最上川取水口」から水を取り入れ、山辺町を通って山形の水田に流れています。

ミニ知識

「水争い」

山形市には、市内を流れる大きな川として、「馬見ヶ崎川」と「須川」がありますが、このうち「須川」には温泉の強い酸性の水が流れ込むので、農業に使うことができません。

農家の人たちは、馬見ヶ崎川の水を上手に使うため、「水を分ける方法」などの約束事を作ってきましたが、水不足の時は、自分たちの堰に少しでも多くの水を流そうと、夜中に人目を盗んで、他の堰の石止めを動かし、自分の堰に水を流す水泥棒が出るなどと争いがしばしば起こりました。





「山形五堰」を守る人たち

右の写真は梅花藻（キンポウゲ科の多年草）で常緑の沈水植物。初夏に梅の花の形をした花を咲かせ、清流にしか生育されないとされ、湧き水が流れる水路などで多く見られます。県内でも最近、水路改修・水質悪化・農薬散布などの影響で、絶滅した自生地が多く、山形県の準絶滅危惧種に指定されています。



下の写真は、小学校での社会科授業や総合的な学習の時間などで「山形五堰」が取り上げられるようになり、このことをきっかけに、さまざまな活動が行われています。

市民ボランティアによる清掃活動や五堰の見学会なども盛んに行われるようになりました。平成9年からはじめた「五堰クリーン作戦」では、年を追うごとに参加者は増え、集まるゴミは逆に減ってきています。



①馬見ヶ崎川合口頭首工



③ふれあい通り親水護岸



④堰と洗い場

御殿堰の探検

「御殿堰」は城の堀を満たすために、城を目指して東から西へ、小白川町から、今の緑町三丁目あたりを通り、三ノ丸大手門のすぐ東に位置する七日町を横切って、堀へと注いでいた堰であったことから、「御殿」の名が冠せられています。そんな歴史を感じさせる御殿堰を探検してみましょう。

①馬見ヶ崎川合口頭首工

山形自動車道路の山形蔵王インターの近くに「馬見ヶ崎川合口頭首工」があります。山形五堰の水はこの施設から取水しています。御殿堰を始め山形五堰の始まりです。

②御殿・八ヶ郷堰親水広場

山形蔵王インターを出て、馬見ヶ崎川に沿って北西に進むと「御殿・八ヶ郷堰親水広場」があります。ここは山形五堰の水を利用して、水遊びなどができるように整備した広場です。

③ふれあい通り親水護岸

東部公民館北側を流れる御殿堰は「ふれあい通り親水護岸」と名づけられています。地域の人や子どもたちの清掃活動により、平成21年頃から梅花藻が見られるようになりました。

④堰と洗い場（昔のくらし）

「ふれあい通り親水護岸」を少し進むと、堰に降りる石階段が見られます。かつては、洗い物など生活用水に利用されていました。

⑤「鰻・郷土料理 あげつま」前

小白川町を過ぎ、寺町に入ると御殿堰は「鰻・郷土料理 あげつま」の敷地内に流れていきます。

⑥専称寺境内（せせらぎ）

そして、御殿堰は、最上義光の愛娘駒姫の菩提寺である専称寺境内へと流れていきます。境内の静寂な雰囲気の中にせせらぎの音が心地よく聞こえてきます。

⑦七日町御殿堰

寺町を過ぎると、老舗とモダンが混在し山形の歴史と伝統、癒しの空間を体感できる「七日町御殿堰」に辿りつきます。石積の間にのぞく苔の緑が涼しげです。

⑧御殿堰済生館中央親水広場

御殿堰探検の終着地は、「御殿堰済生館親水中央広場」です。水と親しむふれあい広場として平成8年に作られた新しい親水空間です。



⑤堰と料亭



⑥専称寺境内



⑦七日町御殿堰